

# 日工會報

第30号  
令和5年2月28日  
発行 日立工業高校同窓会  
発行者 同窓会 事務局  
日立市城南町2-12-1  
☎ 0294 (22) 1549  
FAX 0294 (21) 4591  
印刷所 SATOプリント  
☎ 0294 (33) 0883

## 会長挨拶

同窓会会長 梶山 隆範



日工会会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より多大なるご支援・ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、去る令和四年十月三十日に本校は創立八十周年を迎えました。その前日の十月二十九日には日立市民会館において創立八十周年記念式典が行われ、日立市長小川春樹様、茨城県学校教育部長秋本光徳様、元サッカー日本代表鈴木隆行様、ならびに同窓会、保護者、旧職員の方々を迎え盛大に開催されました。

記念講演で講師を務めた本校OBの鈴木隆行氏をご活躍され

た二〇〇二年FIFAワールドカップ日韓大会は、ついこの前の出来事のような印象もありましたが、今の高校生が生まれる以前の出来事であることに、時の流れの早さを感じております。鈴木氏の講演で特に印象に残ったのは、「試合に出られない日々がずっと続いたが、いつチャンスが来ても良いように、練習だけは怠らなかつた」といった内容です。世間一般では鈴木氏は「ワールドカップで彗星の如く現れたシンデレラボーイ」という印象が強かつたかと思いますが、講演ではクラブチームでもなかなか出場の機会に恵まれなかつた不遇の時代や、環境を変えてブラジルへ渡つたときの話など、包み隠さず話していただきました。「努力は必ず報われるものなのか?」という誰もが考えたことのある難題に対して、「チャンスが来たときに、そこで応えられるだけの努力をしていなければ、つかみ取ることはできない」という激励ともいえる助言をいただいたような感覚でした。鈴木

木氏のW杯予選ベルギー戦での「つま先ゴール」は伝説として語り継がれておりますが、この講演を聞き、あのゴールは生まれるべくして生まれたのだと確信いたしました。まさに「挑み続けたサッカー人生」という題目に相応しい素晴らしい講演でした。鈴木氏の今後のご活躍をお祈り申し上げます。

八十周年記念式典後に行われたワールドカップカタール大会においても日本代表チームは大変な活躍を見せ、日本国民が大いに勇気づけられました。日本代表の三笥選手の「1mmの奇跡」と評されたアシストが大変話題となりましたが、鈴木氏の講演を聞いた後ということもあり、とても感慨深いものがありました。

また、今年度においては三年ぶりに日工祭が開催されました。コロナ禍ということもあり、文化祭の一般公開を見送り、校内のみで行う学校が多い中、本校は事前登録制という形をとって一般公開で開催いたしました。感染対策をしながらの開催

ということ、先生方もいろいろとご苦労があったことと思えます。無事に開催され、大いに盛況であったことを嬉しく思います。八十周年記念式典ならびに日工祭におかれましては先生方、大変お世話になりました。この場をお借りしまして深く御礼申し上げます。

こちらの広報誌におかれましても、在校生の活躍として、進路関係や資格取得、部活動の大会等の記録が記載されております。こちらに関しても、生徒自身の努力も去ることながら、先生方のお力添えの賜かと存じます。本当にいつもありがとうございます。

来年度から本校は機械・工業化学科二クラス、電気科一クラス、情報電子科一クラスの計四クラスとして改編されると聞いております。少子化の波がここまできたか、と正直寂しい気持ちもありますが、同窓会としても母校をできる限り支えてまいります。

結びに、八十周年という大きな節目を超えた母校のますますの発展と、皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。同窓会会長 挨拶いたします。



## 学校長挨拶

学校長 西野 守郎



同窓会（日工会）の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。令和四年十月二十九日には、無事に創立八十周年記念式典を執り行うことができました。これもひとえに日工会の皆様の御協力あつての賜であります。大変お世話になりました。

日本国内において令和二年より徐々に感染が拡大した新型コロナウイルスウィルス感染症の影響を受けながらも、学校現場では「生徒の安全の確保」と「学びの保証」の両面において、生徒や保護者の皆様の不安の解消と、充実した学校生活の実現に取り組んでまいりました。今後も、感染状況に応じた対策により、安全を確保しつつ充実した教育活動が送れるよう取り組んでまいります。

さて、今年度も部活動の活躍はめざましく、多くの部活動が大会等で好成績を残しております。

### 事務局長挨拶

舎管制 教頭 古川 博文



す。詳細は「部活だより」をご覧ください。また、ものづくりコンテスト茨城大会では入賞技能検定試験では優秀賞をいただきました。三年生進路状況では、就職希望者は順調に内定を得ています。また、進学希望者も希望する大学、専門学校への進学を決めており、なかでも国立大学である長岡技術科学大学にも合格しております。就職、進学ともに順調に生徒が希望する進路へと決まりつつあります。今後「誠実 剛健 自主創造」の校訓のもと、地域・日本・世界に貢献できる人材の育成を目指し取り組んでまいります。

今年度から新学習指導要領に基づいた教育課程が始まりました。「何を学ぶか」だけでなく「何ができるようにするか」が求められています。個別最適な学習活動や進路希望に対応した教育活動、進路相談などをとおして、生徒が達成感や自己肯定感、学ぶ喜びを感じることができるよう努めてまいります。

これからも生徒の可能性を最大限引き出し、地域に信頼される学校づくりを進めてまいります。終わりになりますが、暁工会の皆様には、今後も本校の教育活動に一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、皆様のご健勝・ご活躍と暁工会の益々の発展を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

昨年度に引き続き事務局長を務めさせていただきまして、同窓会の皆様には今年度も非常にお世話になりました。未だ終息が見えないコロナ禍の中、同窓会の皆様には、本校教育へのご理解とご支援に多大なる貢献を頂き誠にありがとうございます。

さて、今年も新型コロナウイルスに振り回され続けた一年でありましたが、皆様のご協力とご理解の下、本校においては工夫を凝らし通常行事を可能な限り実施してきました。昨年度は中止した五月の遠足を今年は方面を限定して実施することができ、生徒も良い思い出ができたようです。また、クラスマッチ、授業公開、インターシンプ等の恒例行事も滞りなく終えることができました。二学年の修学旅行も、感染拡大の期間に当たってしまい、やむを得ず不参加となった生徒も出てしまいました。が、広島・大阪・京都方面の三泊四日の日程を無事終了することができました。引率者として同行しましたが、当学年は中学で修学旅行が中止となった学年

なので、生徒たちが非常に喜ぶ様子を見ることができました。更に今年度は創立八十周年を迎え、様々なコロナ感染状況を想定し、感染対策をとることにより、本校OBであるもとサッカー日本代表の鈴木隆行氏を講師に招き、盛大に記念式典を行うことができました。これも偏に同窓会の皆様のご協力有つてのことと感謝致します。

来年度からは機械科と工業化学科が「機械・工業化学科」となり、電気科・情報電子科と合わせて四学級でスタートとなります。少子化の波は致し方ないことではありますが、本校の発展のためにより一層のご支援をお願い申し上げます。

### 役員だより

同窓会相談役 小野崎久輝 (昭和25年電気科卒)

昨年は、我が校創立八十周年を盛大に執り行われ、誠に御度う御座いました。会場内の周囲を見渡しますと、先輩や同輩の諸氏の姿は残念ながら見当たりませんが、後輩の諸氏は元気な姿で、久しぶりにお会い出来て、懐かしさと頼もしさを感じながら、会話をしばしの間、楽しむ事が出来ました。次回の祝いの会は、九十周年になるかと思われませんが、私は九十九才になってしまいます。

それでも何となしに私にとっては何より目標になりました。会長さんのお話によりまして、我が校の卒業生は一万四千名を越えたとの事。日立を中心として地域社会にとつては、大きな力になり得た事と思えます。誠に喜ばしい事です。校訓にもあります、誠実と剛健を会得して夫々の諸氏が頑張った訳ですから、多くの皆さんから信頼を得たその力は、ものすごく貢献が出来たものと思います。人生には三回の大きな節目があるといわれて居ります。先ず三十才迄の人生は心身共に成長する時代で、いわゆる成長・学びの期間と、次に六十才迄の心身共に充実した壮年期と、九十才迄の人生の円熟期を経て、定年期を迎えられる事です。終わりが良ければ全て良しです。精々健康に留意して長生きして下さい。愈々も御健勝を祈ります。

### 爽やかな善意

石川 洋一 (昭和30年電気科卒)

令和四年七月十七日、夏の甲子園を目指す高校野球茨城県大会の第三回戦がひたちなか市民球場で行われた朝の出来事です。我が日立工業は一回戦、二回戦と勝ち進み久々のベスト十六を目指し、対戦相手は同じ市内の科技高で、勝利を期待して高萩から球場を目指して車を飛ばしました。九時前に到着しチ

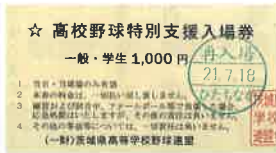
ケット売場で三十番目位に並びましたが、あたりは人ごみで賑わい、中でも鮮やかな紺色のポロシャツで胸にHITACHIのマークの入ったユニフォーム姿の我が校のPTAの皆さんの姿が目を引きました。

やっと順番が近づき、ふと前を見ると、一人の青年が私の二人前の脇に割込むように寄って来ました。不信に思っていると私の前の人がある青年と何か話し合ったようでした。するとその青年が一歩前へ出てチケット売場の女子高生に丸穴越しにそつと伝えていた言葉を耳にしてびびりました。それは「チケットの釣銭が千円多いので返しに来ました」という声でした。全く予期せぬ言葉に驚きました。その青年はお金を渡すこと何事もなかったような顔つきでその場を離れたので、私は振り返って目で青年の後ろ姿を追いましたところ、十人位後の列を横切つて一塁側の人ごみの中へ消えて行きました。

私の順が来たのでチケットを買い正面入口からネット裏へ向かい我が校の陣が一塁側と判りましたので一塁側寄りの席で試合開始を待ちました。

待ちながら、今、チケット売場であった光景を思い浮かべました。それは、ほんの一瞬の出来事で、私の前の人と、チケット売場の学生しか知らない小さな出来事かも知れません。しかし、世間を見ると、前日にはコロナ感染が過去最高のニュー





ス、ロシアとウクライナの痛ましいニュース、更に安倍元首相の事件等々、あまりにも大きな事件が重なる昨今、なんと爽やかな善意であろうかと心うたれる思いで振り返りました。更にその善意の主は何処の人かと思いをめぐらせた時、一塁側へ向ったということは、この試合は我が校の陣が一塁側なので、若しかして我が校の卒業生かも知れないと思いつち、同窓生として大変誇らしく思い嬉しさが込み上げて来ました。

試合は途中激しい雨にあい一時間の中断の末二対六で敗れ、ベスト十六の期待は絶たれましたが、「千円札の善意」を想い出し、爽やかな気持ちで球場を後にしました。

今年には学校創立八十周年の記念の年、歴史ある我が日立工業高校の卒業生「千円の善意の主」の前途に幸多かれと祈るとともに、若しかして、この文を読んでも呉れたならば是非お目にかかりたいと熱望する次第です。

## 令和3年度 同窓会決算書

自 令和3年4月1日  
至 令和4年3月31日

収入総額 6,252,501円  
支出総額 426,005円  
差引残高 5,826,496円

### 収入の部

単位：円

科目	令和3年度 予算額	令和3年度 決算額	差引増減額 (▲印減額)	摘要
繰越金	5,362,455	5,362,455	0	
会費 終年会費	990,000	890,000	▲100,000	全日(173名)・定時(5名)×5,000円
雑収入	50,000	46	▲49,954	利息46円
合計	6,402,455	6,252,501	▲149,954	

### 支出の部

単位：円

科目	令和3年度 予算額	令和3年度 決算額	差引増減額 (▲印減額)	摘要	
会議費	120,000	88,318	▲31,682		
	総会費	60,000	40,000	▲20,000	総会
	役員会費	60,000	48,318	▲11,682	役員会、監査交通費、監査弁当代
事業費	450,000	242,000	▲208,000		
	会報費	350,000	242,000	▲108,000	会報印刷代4000部
	諸経費	100,000	0	▲100,000	
事務費	130,000	84,687	▲45,313		
	通信費	100,000	67,054	▲32,946	郵配送代等
	消耗費	30,000	17,633	▲12,367	封筒代
慶弔費	100,000	0	▲100,000		
予備費	5,602,455	11,000	▲5,591,455	野球応援広告料	
合計	6,402,455	426,005	▲5,976,450		